

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 4 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25285173

研究課題名(和文) 高齢者保健福祉専門職の離転職の関連要因とその予防策に関する国際比較研究

研究課題名(英文) An International Comparative Study of Turnover & Job Change and its Related Factors, and its preventive measure in Elderly Welfare and Health Settings

研究代表者

石川 久展 (ISHIKAWA, Hisanori)

関西学院大学・人間福祉学部・教授

研究者番号：80222967

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、高齢者保健福祉専門職の離転職と関連要因に関する日本、韓国、アメリカの国際比較研究であるが、具体的には、離転職と密接に関連のある専門職の燃えつきと燃えつきを引き起こす要因の解明に焦点をあてたものである。日本、韓国、アメリカ(ハワイ)の3地域のソーシャルワーカーや介護職などの専門職を対象に量的調査研究を行った結果、燃えつきに有意に影響を及ぼしている要因として、専門職が所属する組織の意思決定のあり方、コミュニケーション、上司部下の人間関係など、組織にある様々な要因があることが明らかになった。今後は、これらの3カ国の国際比較研究の成果を公表する予定である。

研究成果の概要(英文)：This is an international comparative study on turnover and its associated factors among health and welfare professionals for older people in Japan, South Korea and the United States. More specifically, it focuses on examination of burnout, which is closely associated with turnover, and its contributing factors among these professionals. A quantitative study was conducted with relevant professionals, including social workers and direct care workers, in three countries/regions: Japan, South Korea and Hawaii (the United States). The results show various organizational factors that significantly affect burnout, such as decision-making methods, communication and supervisor-staff relationships at the organizations these professionals belong to. In the future, the results of this international comparative study in the three countries will be published.

研究分野：高齢者福祉

キーワード：燃えつき 高齢者保健福祉専門職 ストレス 介護職 福祉職 国際比較研究

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の背景としては、わが国では、ここ 10 年の間に、高齢者保健福祉分野の専門職、特に介護職の人材確保難や離転職の問題が大きな社会問題となっているが、社会福祉分野における人材不足問題は、古くから指摘されている問題であり、何も今に始まった問題ではない。研究代表者は、1990 年代はじめに現在の東京都健康長寿医療センター研究所において、高齢者施設における介護職の離転職問題を、介護職のストレスや燃えつきとそれらの関連要因の分析という視点から研究してきている。それらの研究の結果、介護職の燃え尽きやストレスには、職員の給与や休暇等の労働条件が有意に関連するのではなく、職場のリーダーシップや意思決定のあり方、上司・部下との関係などの組織的な要因が有意に関連していることが明らかとなった。また、研究代表者は、高齢者保健福祉分野に従事する介護職、看護師、相談員を対象に燃えつきを軽減する要因を検討する研究を行ったが、職員が参加する職場外研修やスーパービジョンが燃えつきの軽減に有意に関連することが明らかになった。2000 年の介護保険制度導入後以降、労働条件や労働環境の悪さなど様々な要因により、介護職を中心に高齢者保健福祉専門職の離転職の高さや人材確保困難といった問題がより一層社会問題化した。それらの状況を踏まえて、研究代表者は平成 21 年度から 23 年度までの 3 年間、基盤研究(B)(課題番号：21330144)を受けて、高齢者保健福祉専門職の離転職の要因分析と専門職支援の可能性を検討してきた。その結果、高齢者福祉施設の介護職の離転職には、給与や労働時間などの労働条件の問題ではなく、20 年経った今でも、管理職のリーダーシップをはじめとする組織的な要因が関連しているという結果が得られた。さらに、全国の地域包括支援センターの社会福祉士、ケアマネジャー、保健師等を対象とした量的調査の結果、過去の先行研究とは若干異なり、燃えつきの要因として個人的達成感が重要であることが示唆され、新しい知見を得ることができた。以上のように、研究代表者は、これまでわが国における高齢者福祉専門職の労働状況、組織体制、燃えつき及び専門職支援の研究を継続しているという背景がある。

その一方、隣国である韓国では、2008 年に日本とは若干制度は異なるが、同じ介護保険制度(韓国語では長期療養)が導入された。近年、本制度の核となる専門職の療養保護士の労働条件の悪さや離転職の問題、さらに組織体制の不備等の問題が社会問題化しつつあり、高齢者福祉専門職についてわが国と同じような問題を抱えている。また、研究代表者は 2014 年の 1 年間、ハワイ州にあるハワイ大学に研究留学をする機会を得たが、ハワイ州においても、介護人材を含めた高齢者保健福祉の専門職は、労働条件があまりよくな

く、外国人労働者の仕事となっていることが多く、この点では、日本、韓国と同様、ハワイにおいても専門職の人材確保が同じようなことが課題となっているという背景がある。以上のような背景から、本研究においては、専門職の離転職とその要因分析という研究テーマに関する国際比較研究を行うこととなった。

2. 研究の目的

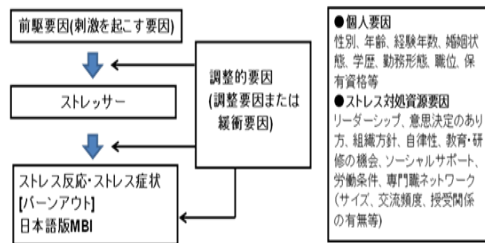
本研究の目的は大きく 2 つあげられる。第 1 の目的は、すでに超高齢社会を迎え、世界一の高齢社会となった日本、急速に高齢化しており、日本と同じような介護保険制度をもつ韓国、そして、高齢社会の問題をかかえつつも、日本や韓国とは異なる高齢者保健福祉医療サービスをもつアメリカ(ハワイ)の 3 カ国において、高齢者福祉を支えるソーシャルワーカーや介護職などの専門職の労働条件や労働環境、ストレスや燃えつきの状況、専門職ネットワークの国際比較研究を行い、まだ研究が十分なされていない本テーマに関する基礎的な知見を蓄積することにある。第 2 の目的として、制度の内容は多少異なるが、同じような介護保険制度をもつ日本と韓国、日韓 2 カ国とは、全く異なる高齢者保健医療福祉制度を持つアメリカを取り上げ、これら 3 カ国の高齢者保健福祉領域の専門職に焦点をあて、専門職の高い離転職率とその関連要因について、多母集団比較分析を含めた要因分析を行い、離転職の防止につながる要因を明らかにすることがある

3. 研究の方法

本研究の方法と研究計画についてであるが、本研究では、3 カ国の国際比較研究を行うという点から、各国の専門職に対する質的調査と量的調査を中心に行う。具体的には、初年度の計画については、まず、本研究テーマに関する先行研究や文献のレビュー、あるいは研究者同士のディスカッションによる理論研究を行うと共に、3 カ国での量的調査実施のために各国で事前の打ち合わせを行う。2 年目は、研究代表者が 1 年間、アメリカのハワイ大学に研究留学していたので、最初の半年間はハワイ大学のあるハワイ州オアフ島を中心に高齢者福祉や専門職の現状の把握、専門職へのインタビュー等の基礎的な研究を行い、残り半年の間に、量的調査研究を行う。3 年目は、介護職、ソーシャルワーカー等の保健福祉専門職を対象とした量的調査を日本と韓国で行う。最終年度は、量的調査のデータを共分散構造分析など多変量解析を用いて分析する。研究方法は、量的調査が中心であるが、日本、韓国、ハワイの研究においては、必要に応じて質的調査法も行うので、質・量のミックス法を用いることになる。

本研究における理論モデルは、図示すると、次の通りとなる。

本研究の枠組み



基本的には、前駆要因としては、個人要因を中心とし、ストレス対処資源要因を調整的要因とし、その中に組織要因や研修、労働条件、専門職ネットワークが含まれる。この理論モデルは、3カ国のデータ比較を実施する際に用いる多母集団分析の分析モデルともなる。分析には、MPlus(Muthen & Muthen)のVersion 6を用い、多母集団分析以外にも、確証的因子分析、パス解析などを行う予定である。

4. 研究成果

平成 25 年度は、本研究テーマに関する理論研究および調査デザイン、特に質問紙調査の枠組み作りを中心に研究を進めた。まず、研究代表者と研究分担者として研究会を開き、燃えつきとその関連要因に関して検討を行ってきた。特に、専門職ネットワーク、ソーシャルサポート、職員満足度などの尺度構成については何度か検討を行い、平成 25 年 12 月にはおおよその枠組みを設定することができた。研究代表者は、関東在住の連携研究者である奥山氏、渡辺氏と何度かそれぞれが所属する機関の研究室において上記以外の尺度や関連要因の概念についての可能性の検討を行ってきた。平成 25 年度は、研究代表者が平成 26 年度にハワイに 1 年間留学していたこともあり、ハワイでの調査実施のために、調査項目の設定やその他の海外での調査の準備も行った。平成 25 年度の研究成果としては、6 月に韓国ソウルで開かれた第 20 回国際老年学会において、石川、奥山氏、渡辺氏がそれぞれの研究テーマで研究発表を行った。また、石川、澤田氏、渡辺氏は、9 月に北海道札幌の北星学園大学で開かれた日本社会福祉学会第 61 回秋季大会において各自のテーマで研究発表を行った。次に、論文についてであるが、2014 年 3 月に刊行された関西学院大学人間福祉学部の紀要である『Human Welfare』第 6 巻第 1 号に、「韓国における療養保護士のバーンアウトの関連要因に関する研究」を投稿し、掲載された。また、大和氏は、単著『介護人材の定着促進に向けて - 職務満足度の影響を探る - 』（関西学院大学研究叢書）、さらに『人間福祉学研究』と『老年社会科学』の 2 つの学術雑誌に論文が掲載された。以上が研究成果である。

平成 26 年度については、研究代表者が本務校の留学制度により、ハワイ大学ソーシャルワーク学部の客員研究員として研究を行っ

た。研究テーマは、「ハワイにおける日系高齢者を中心とした高齢者福祉の現状と課題」であったが、特にオアフ島における日系高齢者の長期ケア(介護)問題に焦点をあて、研究を 1 年間行った。ハワイ州オアフ島においては、日系人人口が約 4 分の 1 を占めるが、日系高齢者など特定の人種や民族などを対象とした高齢者サービスや長期ケアはなく、また、そのベースとなるサービスニーズなどの基礎データが存在しないことがわかった。そこで、ハワイ州で日系高齢者の長期ケアをとりまく諸問題や課題を整理するとともに、日系高齢者を対象として、長期ケアのサービスの認知度や利用意向について調査を実施し、基礎的なデータを得ることとした。それらの一連の研究の成果として、日本老年社会学会の学会誌「老年社会科学」(vo.36 No.4)に「ハワイ州における日系高齢者の長期ケアの現状と課題」という論文が、また、本学部の「Human Welfare」第 7 巻第 1 号に「ハワイ州オアフ島における日系高齢者に対する支援や長期ケアの現状と課題 - NPO 法人若葉ネットワークの活動を通して - 」という論文が掲載された。7 月末にハワイ大学で開催された East Asia Social Policy という学会においては、「Burnout and its related factors among care workers in Japan」というタイトルで発表を行った。これらの論文・学会発表以外にも、NPO 法人若葉ネットワークの勉強会での講演、木曜午餐会という日系人の会合で講演会、さらにハワイ大学ソーシャルワーク学部で特別講義を行った。量的調査では、最終的に 103 人からのデータが集まり、それら进行分析・検討し、その成果を「人間福祉学」に投稿した。

平成 27 年度は、量的な調査研究として本研究のこれまでの枠組みに基づき、平成 27 年 9 月から 11 月末にかけて韓国における調査のための調査票の作成や韓国語翻訳作業を行い、12 月に韓国ソウル市内にある介護保険施設やその他の介護保険サービスに従事する介護職である療養保護士 400 名を対象に燃えつきとその関連要因に関する量的調査を実施した。2 月にはデータ入力等を完成した。また、平成 28 年 1 月から 2 月にかけて同じ韓国ソウル市において高齢者保健福祉分野に従事するソーシャルワーカー 200 名を対象とし、療養保護士とほぼ同じ枠組みをもって、ソーシャルワーカーの燃えつきとその関連要因に関する量的調査を実施し、3 月末にデータ入力を終えた。その他、ハワイ大学ソーシャルワーク学部のキム・ブンジュン博士とは、平成 27 年夏に研究会をもち、昨年 10 月にタイチェンマイで開かれた国際老年学会アジアオセアニア大会、およびソーシャルワーク国際学会アジアオセアニア大会での学会発表における研究発表の打ち合わせを行うとともに、国際的な雑誌への論文投稿の分担について検討を行った。また、平成 28 年 3 月に再度ハワイで研究会を開き、ハワイ

における研究結果について、平成 28 年 6 月に韓国で開かれるソーシャルワーク国際大会および東アジア社会政策学会での研究発表に関してその内容を検討した。

平成 28 年度の研究実績の概要であるが、平成 28 年の 9 月までの上半期は、研究代表者の体調不良のために、予定していた研究計画を十分に進めることができなかった。本研究は、平成 28 年度が最終年度となり、終了する予定であったが、最終年度の計画目標である燃えつきの予防に関する研究までは至らなかった。なお、上半期に行った研究としては、文献研究の確認、研究方法の確認、データ分析の結果についての確認など、研究チームにある研究協力者との論文執筆に関する打ち合わせが中心となった。平成 28 年度には 2 本の論文執筆に取りかかった。もう 1 本の論文については、ハワイ大学のキム・ブンジュン博士が執筆し、英文の学術雑誌に投稿した。10 月以降の下半期の研究実績についてであるが、介護職員に対する調査を実施するために、10 月から調査票作成にとりかかり、12 月から 1 月にかけて日本各地の 40 数施設の特別養護老人ホーム及び併設のデイサービスに従事する介護職員を対象として、燃えつきとその関連要因に関するアンケート調査を実施した。1200 余りの回収数があり、2 月から 3 月にかけてデータをクリーニングし、入力作業を行った。

平成 29 年度は、1 年間、補助事業期間を延長した。最終年度ということで、これまでの 5 年間の研究結果全体をまとめ、それと共に、研究結果に関する今後の公表方法について検討を行った。具体的には、平成 25 年度から 28 年度までの 4 年の研究期間中に実施したアメリカ・ハワイ、韓国、日本において高齢福祉専門職を対象とした燃えつきとその関連要因に関するアンケート調査の結果をまとめ、データの分析方法と比較研究のあり方について改めて確認すると共に、各国の調査結果に関する原著論文執筆の担当、内容などについて、研究分担者の大和氏と松岡氏、連携協力者の澤田氏、渡辺氏などと打ち合わせを行った。

また、韓国で実施した調査研究については、元ハワイ大学、現中央大学(韓国)のキム・ブンジュン博士と打ち合わせをし、それらの結果に関して、2017 年 8 月に 1 本目の原著論文をアメリカの学術雑誌に投稿し、論文がアクセプトされたところである。論文名は "The Effects of Job Autonomy and Job Satisfaction on Burnout among Care workers in Long-Term Care Settings: Policy & Practice Implications for Japan and South Korea" であり、投稿した雑誌は、"The International Journal of Aging and Human Development." である。キム・ブンジュン博士とは 2018 年 3 月に再度韓国において、今後の学会発表や論文投稿について改めて確認をした。

その他、韓国の調査結果に関して、日本の学

術雑誌『人間福祉学』に論文を投稿し、現在査読結果待ちである。その他、ハワイでの調査結果をまとめ、論文を執筆している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計 20 件)

Kim, B.J., Ishikawa, H., Liu, L., Ohwa, M., Sawada, Y., Lim, H. Y., Lim, Kim, H.Y., and Cheung, C. "The Effects of Job Autonomy and Job Satisfaction on Burnout among Care workers in Long-Term Care Settings: Policy & Practice Implications for Japan and South Korea", *The International Journal of Aging and Human Development*, 2018、査読あり、掲載決定、頁数未定。

大和三重「地域包括支援センターにおけるチームアプローチの実態と課題」『Human Welfare』第 10 巻第 1 号、2018、pp.67-77、査読無

石川久展、大和三重、胡宝奇「高校生の福祉の仕事に対するイメージや就職意識の実態 - 兵庫県の高校生に対する実態調査の結果をもとに - 」『Human Welfare』第 10 巻第 1 号、2018、pp.57-65、査読無

松岡克尚「大学での障害学生支援における「障害モデル」に関する一考察」『Human Welfare』第 9 巻第 1 号、2017、pp.57-65、査読無

石川久展「ハワイ州オアフ島における日系中高齢者の長期ケアに対する意識の実態」『人間福祉学研究』第 8 巻第 1 号、2015、pp.71-86、査読有

石川久展「ハワイ州における日系高齢者の長期ケアの現状と課題」『老年社会科学』第 36 巻第 4 号、2015、pp.446-454、査読無

石川久展「ハワイ州オアフ島における日系高齢者に対する支援や長期ケアの現状と課題 - NPO 法人若葉ネットワークの活動を通して - 」『Human Welfare』vol.7(1)、2015、pp.35-46、査読無

石川久展「日韓における高齢者保健福祉専門職の離転職の関連要因に関する研究」『地域ケアリング』第 17 巻第 3 号、2015、pp.68-71、査読無

大和三重「介護は現代社会にとって最も重要な課題である」『老年社会科学』第 37 巻第 1 号、2015、pp.42-47、査読有

大和三重「日本における高齢者福祉政策の現状と今後の課題」『教育医学』第 61 巻第 1 号、2015、pp.53-56、査読有

大和三重「日本における介護保険制度の現状と今後の課題」『The International

Conference on Aging & Geriatric Care Medicine of China, Japan and South Korea 論文集、2015、pp.69-71、査読無

大和三重「高齢者差別と人権侵害 - エイジズムから高齢者虐待まで - 」兵庫県人権啓発協会『研究紀要第十八輯』、2015、pp.25-48、査読無

澤田有希子、石川久展、大和三重、松岡克尚「包括支援センターの専門職のソーシャルサポートの実態に関する研究 - 地域包括支援センター3 専門職の実態把握調査を通して - 」『関西大学人間健康学研究』第7・8号合併号、2014、pp.13-25、査読無

澤田有希子、石川久展、大和三重、松岡克尚「地域包括支援センターの専門職の燃えつきとソーシャルサポートに関する研究」『厚生指標』第61巻6号、2014、pp.26-32、査読有

金慧英、石川久展「韓国における療養保護士のバーンアウトの関連要因に関する研究」『Human Welfare』第6巻第1号、2014、pp.47-61、査読無

大和三重「日本の福祉行政施策からみた高齢者支援 - 介護保険制度と人材不足の課題 - 」『大阪体育学研究』第51巻、2013、pp.47-53、査読無

大和三重、立福家徳「ケアマネジャーの定着促進要因に関する実証分析 - 「介護労働者の就業実態と就業意識調査 2008」を用いて - 」『老年社会科学』第35巻第3号、2013、pp.311-320、査読有

大和三重、立福家徳「介護老人福祉施設における介護職員の離職要因 - 「ソーシャルサポートとコントロール要因を中心に - 」『人間福祉学研究』第6巻第1号、2013、pp.33-45、査読有

松岡克尚「ヒューマンサービス領域におけるネットワークの類型と社会関係資本」『リハビリテーション連携科学』第14巻第1号、2013、pp.3-17、査読無

松岡克尚「アメリカにおける障害の社会モデルとソーシャルワークの関係について - 近年のソーシャルワーク文献を通して - 」

『Human Welfare』第5巻第1号、2013、pp.33-44、査読無

〔学会発表〕(計16件)

石川久展『ミクロ・メゾ・マクロソーシャルワーク実践の理論的枠組みに関する研究 - 4つのシステムを用いた新しい理論モデル構築の試み』日本社会福祉学会第65回秋季大会(首都大学東京) 2017

石川久展、大和三重『高校生の福祉・介護の仕事に対するイメージや就職意識の実態 - 兵庫県内の高校生に対する福祉・介護の仕事に関する実態調査の結果から - 』第59回日本老年社会学会大会(名古屋国際会議場)、2017

石川久展、大和三重『福祉・介護の人材不足問題の要因に関する一考察 - 高校生、学

生、就職進路担当者及び福祉施設に対する実態調査の結果から - 』日本地域福祉学会第31回(松山大学)、2017

金慧英、石川久展『韓国の介護施設における介護職員の職場特性とバーンアウトに関する研究』2017年韓国社会福祉学会春季大会(麗水)、2017

金慧英、石川久展『韓国の管理職と介護職員の勤務環境に関する研究: インタビュー調査の結果から』2016年韓国社会福祉学会春季大会(プサン)、2016

石川久展『ハワイ州ホノルルにおける日系中高年者の長期ケアに対する意識に関する研究』第57回日本老年社会学会大会(横浜)、2015

石川久展『ハワイ州オアフ島における日系高齢者を対象とした長期ケアの現状と課題 - NPO法人若葉ネットワークの創設の背景とその活動を通して - 』日本社会福祉学会第63回秋季大会(久留米大学) 2015

Hisanori Ishikawa, Akihiro Chiba, and Shoji Okuyama "The Need to Build a Community Welfare Network in Times of Disaster: Through a Relief Activity in the Wake of the Great East Japan Earthquake", 23rd APASWE Asia & Pacific Social Work Conference, (Bangkok, Thailand), 2015

Hisanori Ishikawa, "PERCEPTIONS OF LONG-TERM CARE AMONG MIDDLE-AGED AND OLDER JAPANESE IN HAWAII", 11th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology (Chiang Mai, Thailand), 2015

金慧英、石川久展『韓国における介護職員の燃え尽きに影響を及ぼす要因に関する研究』日本社会福祉学会第62回秋季大会(早稲田大学) 2014

Hisanori Ishikawa, "Burnout and its related factors among care workers in Japan" 11th East Asian Social Policy Conference, University of Hawaii, Manoa, Hawaii, 2014 .

千葉祥裕、石川久展『千葉大規模災害時における地域福祉ネットワークの構築のあり方に関する研究 part2』日本ケアマネジメント学会第14回研究大会(新潟)、2014

Hisanori Ishikawa, "Impact of organizational factors on burnout among care workers in Japan" 10th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology(Seoul), 2013

澤田有希子、石川久展、松岡克尚、大和三重『地域包括支援センターの専門職の燃えつきとソーシャルサポートに関する研究』日本社会福祉学会第61回秋季大会(北星学園大学) 2013

石川久展、澤田有希子、松岡克尚、大和三重『地域包括支援センターの専門職の燃えつきの要因に関する研究』日本社会福祉学会第61回秋季大会(北星学園大学) 2013

千葉祥裕、石川久展『大規模災害時にお

ける地域福祉ネットワークの構築のあり方に関する研究』日本ケアマネジメント学会第13回研究大会(大阪)、2013

〔図書〕(計2件)

松岡克尚『ソーシャルワークにおけるネットワーク概念とネットワーク・アプローチ』関西学院大学出版会、2016、355ページ。

大和三重『介護人材の定着促進に向けて - 職務満足度の影響を探る - 』関西学院大学出版会、2014、186ページ。

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石川 久展(ISHIKAWA, Hisanori)
関西学院大学・人間福祉学部・教授
研究者番号：80222967

(2) 研究分担者

大和 三重(OHWA, Mie)
関西学院大学・人間福祉学部・教授
研究者番号：00213900

松岡 克尚(MATSUOKA, Katsuhisa)
関西学院大学・人間福祉学部・教授
研究者番号：90289330

(3) 連携研究者

奥山 庄司(OKUYAMA, Shouji)
東京経済大学・現代法学部・名誉教授
研究者番号：50073036

金 貞任(KIM, Jongnim)
東京福祉大学・社会福祉学部・教授
研究者番号：00364696

渡辺 裕一(WATANABE, Yuichi)
武蔵野大学・人間科学部・教授
研究者番号：70412921

澤田有希子(SAWSDA, Yukiko)
関西学院大学・人間福祉学部・准教授
研究者番号：60245098